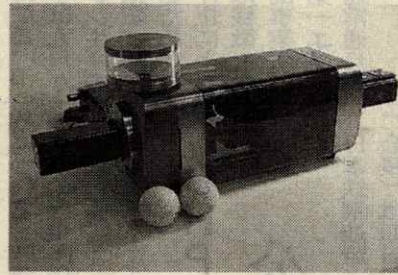


射出成型機

卓上型、品ぞろえ強化

新興セルビック 3、10トン機追加

ユニット金型メーカーの新興セルビック（東京・品川、竹内宏社長）は卓上に置ける小型射出成型機のラインアップを拡充した。型締め圧力1トで1cc以下のプラスチックを成型する従来機に加え、圧力3トで3cc以下と圧力10トで10cc以下の2製品を開発、中小部品メーカー向けに販売する。省スペースで効率的な生産ができる射出成型機として町工場の需要を開拓する。



新興セルビックが開発した小型射出成型機の1ト機は従来機に比べ20分の1程度の容積

同社の小型射出成型機 〇リ×二九二リ。一般的一度の容積で世界でも最小は1ト機の場合、本体のプラスチック射出成型という。従来の成型機は大きさが二〇リ×二二機に比べて二十分の一程長いスクリーンで樹脂を

押し出していたが、平面にらせん状の溝を掘ったフラットスクリーンを使用したり、力を加える減速構造を工夫するなどして小型化した。

新しく開発した3ト機、10ト機は大きさがそれぞれ一四〇リ×一四〇リ×三八〇リ、二二〇リ×二二〇リ×五〇〇リ

と、1ト機に比べて二回りか二回り大きくなるが、それでも卓上に置けるサイズ。1ト機は小さい歯車などの製造が主な用途だったのに対し10ト機なら例えば携帯電話の外側などを成型でき用途が広がる。

価格は3ト機が四百七十万円、10ト機が六百五十万円。1ト機は四百万円。それぞれユニット金型を交換することで様々な製品を成型できるほか、樹脂の通路を加熱して固化を防ぐホットランナーという機構も搭載している。

新興セルビックは新興金型製作所（東京・品川）の開発部門として二九八七年に設立。ユニット金型などを製作する。

樹脂の無駄を出さない生産ができるという。それぞれ月十台の販売を目標にしている。

列島ダイジェスト

卓上型の成型機開発

生産効率アップに機械の小型化必要

▽…「ラジカセをつくる設備で携帯音楽プレーヤーをつくっている」。金型メーカー、新興セルビック（東京・品川）の竹内宏社長は中小製造業が生産効率を上げるには機械の小型化が必要と説く。歯車や製品がどんどん小さくなるのに設備は同じなのが不満だ。

みちしるべ



新興セルビック社長 竹内宏氏

▽…17年かかって樹脂を押し出すスクリーン部分などを改良し、従来機の20分の1から30分の1の卓上型射出成型機を開発した。今後シリーズ化するという。マンションの一室でも操業できるというのが売り。「都市でもものづくりが成り立つ」と力説していた。